

平成28年度 全国学力・学習状況調査結果の公表について

本年度実施された全国学力・学習状況調査における厚真町の子どもたちの概要をお知らせします。

教育委員会では、本年度の調査結果をもとに、今後の教育施策の充実と各学校の教育活動の改善・充実に向けて取組を進めてまいりますので、保護者の皆様をはじめ、地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であること。また、学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

1 調査の目的

児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育に関する施策と継続的な検証改善サイクルを確立して学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

2 調査期日 平成28年4月19日(火)

3 調査の内容

(1) 対象学年 小学校第6学年、中学校第3学年

(2) 児童生徒に関する調査

① 教科に関する調査 国語、算数・数学

国語、算数・数学はそれぞれ、「主として『知識』に関する問題(A)」と「主として『活用』に関する問題(B)」を出題

② 質問紙調査

生活習慣や学習方法、学習環境、生活の諸問題、教科に対する意欲等に関する調査

(3) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における教育条件の整備条件等に関する調査

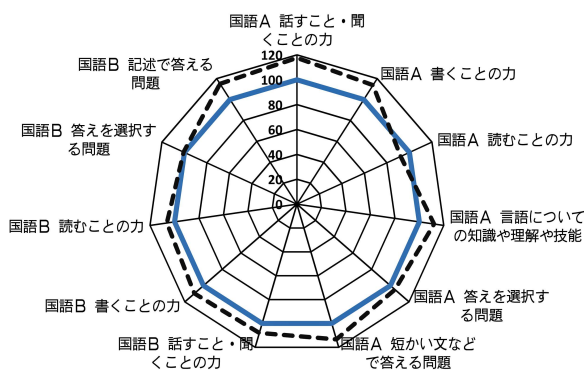
4 参加状況 参加学校及び児童生徒数(小学校:2校 29人、中学校:2校 22人)

5 調査結果の概要

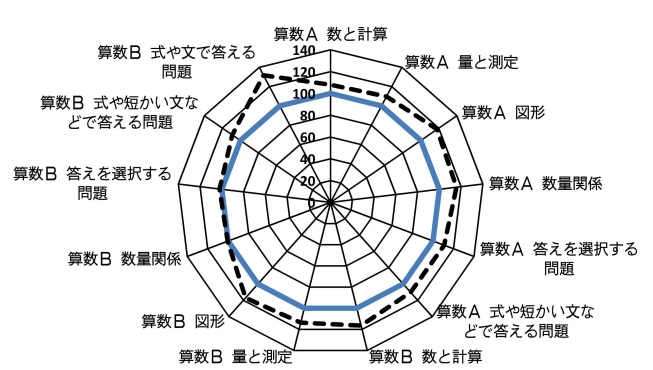
教育委員会では、平成24年度から全国の平均正答率をこえることを目標に学校と連携し、保護者のご理解・ご協力を得て学力向上に取り組んできました。その結果、今年度は、小学校、中学校ともに、国語、算数・数学のA及びB問題の平均正答率で、全国の平均正答率を5%以上上回る結果を得ることができました。

<小学校>

小学校国語の概略



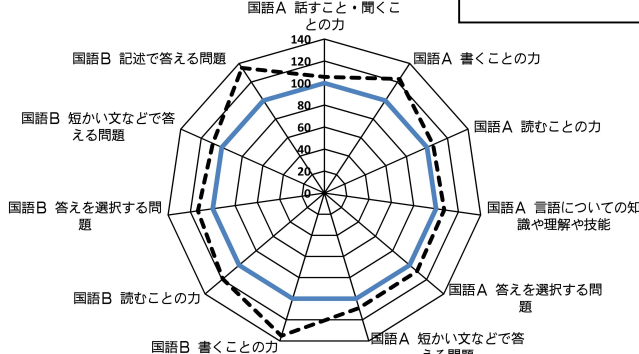
小学校算数の概略



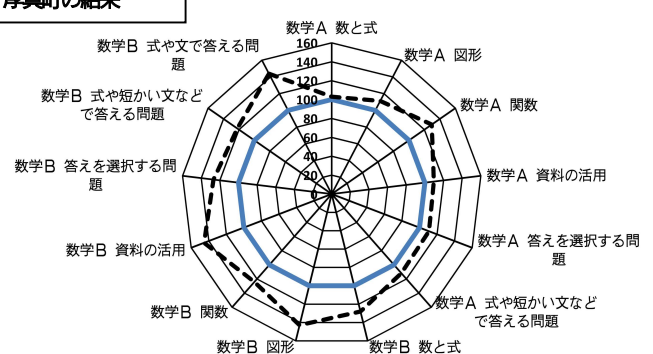
※全国の結果を100としたときの厚真町の結果
—— 全国の結果 (100)
--- 厚真町の結果

<中学校>

中学校国語の概略



中学校数学の概略



7 学力状況の概略

(1) 国語

<p>＜小学校＞ 良かった点：漢字やローマ字の読み書き、文章から必要な事柄を読み取り、要旨をまとめる等の基礎基本の定着が見られた 課題：複数の叙述を基に、自分の考えをまとめて書くこと等</p>	<p>＜中学校＞ 良かった点：文章から必要な情報を得て、自分の考えを具体的に書いたりすること等の基礎基本の定着が見られた 課題：文脈に即して漢字を正しく書いたり、意味を理解して適切に使ったりすること等</p>
--	--

【さらに子どもたちの力を伸ばすために】

- 自分の考えをまとめて書く力や複数の資料から必要な情報を選び出し、活用する力をつけるため、日頃から本や新聞等を読んだり、一つの事柄を調べるときにも複数の資料（本、インターネット等）からまとめさせたりすることが大切です。また、家庭学習での漢字の学習では、書き順等の漢字の書き方だけでなく、漢字辞典などを活用し、漢字の由来や意味、使い方にも関心をもたせることが大切です。

(2) 算数・数学

<p>＜小学校＞ 良かった点：四則計算、式の意味理解と数量関係を簡単な式で表す、図形を構成する要素をとらえる等の基礎基本の定着が見られた 課題：算数の問題場面で見いだしたことを、様々な構成要素に着目して、論理的に考察すること等</p>	<p>＜中学校＞ 良かった点：四則計算、関数の意味、方程式の解き方等の基礎基本の定着が見られた 課題：前提となる条件が不足している場面で、加えるべき条件を判断し、その理由を説明すること等</p>
---	---

【さらに子どもたちの力を伸ばすために】

- 算数、数学の思考を鍛えるために、自分の考えやその理由を友だちに分かりやすく説明させたり、1通りの考えだけでなく、もっとよい方法がないか等を考えさせたりすることが大切です。
- 算数や数学の活用力を伸ばすために、普段の生活の中でも意識的に授業で学習したことを使い、考えさせること（丸いケーキを等しく分ける方法、旅行の時、地図から距離やかかる時間を考えさせること等）が大切です。

8 質問紙の結果から見た子どもの特徴（全国と比べ）

9 質問紙の結果から見た正答率の高い子どもの姿

<p>＜良かった点＞ ・難しいことでも失敗を恐れず挑戦しようとしている子が多い ・宿題や復習など家庭学習に積極的に取り組んでいる子が多い ・学校の規則を守っている子が多い ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると感じる子が多い ・テレビゲームをしない（1時間未満）子が50%をこえた</p> <p>＜改善したい点＞ ・「自分には、良いところがあると思える」等の自己肯定感を育むこと ※この数年間で改善してきているがそれを定着させたい</p>	<ul style="list-style-type: none">家の人と学校での出来事などを話す子家の手伝いをする子地域の行事に参加する子長時間テレビゲームをしない子や、長時間テレビやビデオ・DVDを視聴しない子宿題や予習・復習に取り組む子、特に復習を頑張る子 <p>小学校：規則正しい生活をする子（早寝・朝食） 友達の話をよく聞ける子</p> <p>中学校：人の役に立ちたいと思う子 計画的に勉強する子（2～3時間）</p>
--	---

10 今後の取組

人口減少や技術革新が進む中で子どもたちの将来が大きく変わろうとする今日、学校教育の果たす役割はますます重要となっています。このような学校教育への期待を踏まえ、学校では、日々の子どもの学習や生活の様子や全国学力・学習状況調査、標準学力検査の結果等をもとに「学力向上プラン」を策定し、授業や指導の改善に日々取り組んでいます。さらに、中学校区毎に小中学校が相互に授業参観を行ったり、学習の手引きを交流したりする等、地域毎の指導の連携を進めています。

教育委員会は、子どもたちの学力向上に寄与するため、今後も次の取組を一層推進していきます。

- ①学力の問題は地域全体の問題ととらえ、各学校の代表者をもって学力向上推進委員会を設け、各学校の取組と成果や課題の交流を通し、町内4校の連携した学力づくり等の充実に努めます。
- ②「教育は人なり」と言われるように、学力の向上には教師の授業力の向上が必須と考え、今年度から町教育研究会と連携した「厚真町授業づくり研修会」を開催し、先生方が共同で授業改善に取り組む独自の研修の実施、授業づくりの先進地への視察研修等を通して研修の機会の充実に努めます。
- ③複数教員（加配教員や教育サポーター）による学習指導の充実への支援（小学校）、長期休業（夏休み・冬休み）を利用した補充指導への支援、放課後子ども教室の取組（野外活動や遊び等の豊かな体験活動）、生活リズム定着の取組等の充実に努めます。